Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Roles of the Wada Test and Functional Magnetic Resonance Imaging in Identifying the Language-dominant Hemisphere among Patients with Gliomas Located near Speech Areas

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石川, 達也 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032083

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙 第 2950 号	氏　　名	石川　達也
審　査　委　員　会	主　査　教　授	北川　一夫	

論文審査の要旨（400 字以内）

石川達也氏は言語野近傍の悪性神経膠腫に関して、Wada テスト及び fMRI による言語優位半球同定を行い、Wada テストの省略が可能か否かを検証した。対象は手術を行った言語野近傍の悪性神経膠腫 74 例であった。男性 48 例、年齢は 13～70 歳（平均 42.7 歳）であった。Wada テストは左右各々の内頚動脈にチオペンタールナトリウムを注入し、fMRI は verb generation task(言葉にださないしりとり)を行い、SPM（Statistical parametric Mapping）99 で解析した。Wada テストは 74 例中 73 例(98.6%)で言語優位半球を同定でき、同定不能 1 例は傾眠であった。fMRI は 74 例中 53 例（71.6%）で言語優位半球を同定できたが、判定不能が 21 例（28.4%）あった。Wada test と fMRI で結果が合致しなかった症例が 5 例（8.6%）あり、そのうち 3 例（5.2%）は優位半球が異なった。さらに 3 例中 2 例(2.7%)は、言語優位半球側を非優位半球と判定する「対側の偽陽性」例であった。合併症は、Wada test で 4 例（5.4%）に痙攣発作を認めた。fMRI で言語優位半球を明確に同定できれば、Wada テストは省略できる。しかしながら、fMRI では「対側の偽陽性」の可能性があり、左病変で fMRI で右優位半球と判定された場合などでは Wada テストによる確認が必要と考えられた。脳神経外科手術前の言語有意半球同定を非侵襲的な fMRI と Wada テストを必要に応じ組み合わせ正確に評価することを可能とした点で意義深い研究であり、学位に相当する研究内容であると判断する。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]